



明徳二十年四月十八日内海軍軍費 3587



為朝

為朝十三歳の頃或る日少
 納言信西新院ニ韓非子を講
 義し為朝聴聞のあり母の講義
 と論式成孝の夫を取替と頭



爲朝父の勳氣を受郎黨
 を供して筑紫へ趣き一日山
 狩りて狼を導れ殊の紀平
 次と主従の約を結後狼死
 して爲朝を助く



爲朝
 紀平次

爲朝一代記



為朝一代記



為朝一代記

三

忠國為朝を輝
 氣量を計らん人多くの
 婢女に不意に起て為
 朝は追らむ少くも動せ
 十扇を取鎮めり





爲朝琉球へ渡り昔
 山は登る霧深くて
 絶踏外腑を打ち氣
 介抱は蘇生す
 夫人の

爲朝一代記

四



爲朝

爲朝



爲朝帰国の時
寧王女が望む名
玉を興へ索る鶴
を為朝は渡り途
中の食料は琉球
羊と与へ夫より
帰国せりといふ



爲朝一代記

五





爲朝帰國して洛上
 する時、崇徳院後白
 川院御位争より軍
 起り、兄義朝と敵と
 戦ひ、共遂に軍敗せ
 江州へ落つ

爲朝一代記



爲朝馬飼藤市方
 へ返田中獸の皮を
 賣る男弦断るを怪
 み去る跡を追行き
 射止首と切る是
 山猿と云物ふり



爲朝一代記



爲朝
八



為朝一代記



白綾ハ為朝と救んと
 州にて其機と夫は遠く
 院にて遊人とあり崇徳
 を見玉へ龍顔の恐しき
 と見大ニ驚く

為朝一代記



白綾

十



為朝遣討し兵船大島へ向け来
 る大鏑矢をつりへ標と放
 兵船の腹を射る船忽ち沈
 没す

為朝一代記

為朝木原山
 の寨まで白縫
 姫子逢ふ互又
 驚き其後此山
 寨より白縫男
 子を生のり是と
 呼ぶ



為朝



白縫

為朝一代記

十三



為朝洛下推渡
 清盛を討んと
 出せし大風
 雨起りて
 とす白縫海中
 へ身を投じ

為朝一代記

十三



爲朝ハ勝雲
 其子舜天丸
 琉球と一統
 王と稱し國
 政を執る



爲朝一代記

十四



爲朝一代記

十五

明治十九年十二月廿五日出版御届
 同二十年一月三十一日刻成發兌

定價金貳拾錢

京都府平民

編輯並出版人 内藤彦太郎

下京區第十三組真宗前町五番戶



